時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
○一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク
時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢	五錢
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢

時事新報

政事を以て私に殉する勿れ

石川幹明草

一國公共の事に奔走して心身を勞する者これを稱して政事家と云ふ是種の人物中には眞實、公の爲めに一身の私を忘れ時としては產を破り身を危うして顧みざるものもあり即ち政事の爲めに身を役する者ゑして之に政事家の名稱を付し我輩の異議なき所なれども世間多數の政事家中には政事の爲めに身を役する其代に却て政事を以て一身の爲めにする者あきに非ず是輩は元來一國公共の事を假りて一身名利の私に殉する者ゑして之を稱して僞政事家と云ふも可なり古今東西の事例を案するに政事家の爲めに其國を利したるの例ゐれなきにあらずと雖も滔々たる浮世には不幸ゑして政事家の假面を蒙る者も亦甚ざ少おからずして國の政事は常ゑ是等の人物に私せらるゝの觀なきにあらず蓋し人生名利を好むの念は情慾中の最も盛おるものにして之が爲めゑは身を忘るゝ者もある世の習ひおれば彼の政事家なる者が國事を以て名利の犧牲ゑ供するも今の人情世界ゑ免るべからざる弊害にはあれ國事は一人の私計にあらず人民は政事家の玩弄物おらず世の經世家たる者は能く茲に注意して其弊害を防ぎ天下の公德を奬勵するゑと亦肝要なる可し近頃世の一問題となりたる米國の國會にて支那人移住禁止條例を議決したる事の始末を聞くゑ米人の不法、驚くゑ堪へたりと云ふべし何故に米國の國會兩院が兩國の國交上に關する大事件を斯くも輕忽に議了したるかと云ふゑ本年大統領撰擧の爭に合衆共和の兩政黨が支那人を嫌惡する勞働社會の好意を買ひ其力を借りて勝を制せんとの下心に出でたるものなりと云ふ事の詳細は頃日の時事新報に記載して讀者の知る所ならん即ち米國の國會議員は國交上の問題を政黨競爭の用に供したるものにて政事家が名利の爲めに國事を殉したるの一例として見るべし佛國が千八百七十年獨逸の爲めに敗られ城下の盟をおしたるゝ千古の醜辱にして國人の共ゑ憤ふる所なれども爾來十數年今日に至るまで未ざ其耻を雪ぐに暇あらざるは何故おりや種々の事情もあるとおらんなれども我輩を以て之を見れば佛の政事家が互ゑ相和せず一身自黨の區々たる名利を目的として內に爭ふが爲めなりと云はざるを得ず蓋し佛國一般の人心に於ては復讐の念、寸時も懷に忘るゝとおしと雖も如何せん政事家なる者は內の紛擾に忙はしく偶々數年の共間ゑ十數回の內閣更迭を繰返しなる程の次第おれば外ゑ對して報復を謀るの暇もなくべからず元來人民が政府を維持して負擔の重きを堪ざるは政府をして人民個々の希望する目的を達せしめんが爲めなるに今の佛國人民の如きは御て政府の爲めに其希望を妨げらるゝものなり迷惑至極と云ふべきのみ又彼のチヤーレスザルク氏の艶聞事件の如きも元來僞似曖昧の事柄にして尋常の人事を以て云へば何も齒牙に掛るに足らざる程の事なれども政事社會の熱情は已を揚げんが爲めゑい他を傷けて顧みず可惜一名士を僞似の罪名中ゑ埋沒しさるゑろ氣の毒なれ政事社會の弊害も此に至りて極れりと云ふべし但し其境界中に浮沈するものゝ身ゑては之も自業自得おらめとて自ら觀念するゑともあらんなれども詰る處その弊害の餘波を被りて迷惑する者は人民にゑて不平おきを得ざるなり扨我國ゑて曩ゑ市町村制の發布あり來る明治廿二年四月より實行する都合ゑて昨今各府縣にては正にその準備に忙いしく從來の數個村を合して獨立の一村となし又は人口の數ゑの資格ゑ不足する場處ゑ市制を布んとして傍近の諸村を合併するなど其用意頗りなりと聞く抑も市町村の制度上に於て村が町ゑなり町が市になりたればとて其人民に如何なる利害あるべきや我輩の知らざる所なり例へば今强て數個の町村を合併して市の仲間入したる處にて其舊時の町村ゑ異なる所は何事なりや唯町村ゑは之なき所の市參事會なる者が出來、市長幷に參事會員などいふ政事上の地位を占むる餘計の者を生じ實際の利害は舊ゑ異ならずして却て其負擔の重きを見るゑとならん夫も元來市たるべき資格を備ふる土地なれば兎も角もなれども縱かに傍近の諸村を合併して漸く市たるの資格を備へたる處にて實際の功能は唯政事上の地位を有數の人ゑ與へ之が爲めに自ら負擔を重くするに過ぎずその合併せられたる町村の人々ゑも迷惑の至りと云ふべけれ我輩は自治制度の施行を見て之を喜ぶものおれども其實行の實ゑ至りては或は之を名として政事上の地位を作るの爲めにするが如き弊なからん事を希望するものなり

官報

○陸地方官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可ス

御名御璽

明治廿一年十月十三日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十八號

明治十九年(七月)勅令第五十五號地方官官等俸給令中第六條並別表左ノ通改正ス

第六條　警部、警部補、看守長、看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ府縣知事便宜之ヲ增減スルコトヲ得但一等上給俸ヲ受ケタル者特別增俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依ル

（別表略ス）

○陸警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿一年十月十三日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十九號

明治十九年(五月)勅令第四十二號警視廳官制中第三十一條並別表左ノ通改正ス

第三十一條　警部、警部補、消防司令、消防司令補、看守長及看守副長ノ官等月俸ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ增減スルコトヲ得但一等上級俸ヲ受ケタル者特別增俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依ル

（別表略ス）

雜報

○新任秘書官　屢々本紙上ゑ記載せし如く此程歐洲より歸朝したる公使館參事官麻布鎗一郎氏は去る十三日の爲めに其希望を妨げらるゝものなり迷惑至極と云ふべきのみ又彼のチヤーレスザルク氏の艶聞事件の如きも元來僞似曖昧の事柄にして尋常の人事を以て云へば何も齒牙に掛るに足らざる程の事なれども政事社會の熱情は已を揚げんが爲めゑい他を傷けて顧みず可惜一名士を僞似の罪名中ゑ埋沒しさるゑろ氣の毒なれ政事社會の弊害も此に至りて極れりと云ふべし但し其境界中に浮沈するものゝ身ゑては之も自業自得おらめとて自ら觀念するゑともあらんなれども詰る處その弊害の餘波を被りて迷惑する者は人民にゑて不平おきを得ざるなり扨我國ゑて曩ゑ市町村制の發布あり來る明治廿二年四月より實行する都合ゑて昨今各府縣にては正にその準備に忙いしく從來の數個村を合して獨立の一村となし又は人口の數ゑの資格ゑ不足する場處ゑ市制を布んとして傍近の諸村を合併するなど其用意頗りなりと聞く抑も市町村の制度上に於て村が町ゑなり町が市になりたればとて其人民に如何なる利害あるべきや我輩の知らざる所なり例へば今强て數個の町村を合併して市の仲間入したる處にて其舊時の町村ゑ異なる所は何事なりや唯町村ゑは之なき所の市參事會なる者が出來、市長幷に參事會員などいふ政事上の地位を占むる餘計の者を生じ實際の利害は舊ゑ異ならずして却て其負擔の重きを見るゑとならん夫も元來市たるべき資格を備ふる土地なれば兎も角もなれども縱かに傍近の諸村を合併して漸く市たるの資格を備へたる處にて實際の功能は唯政事上の地位を有數の人ゑ與へ之が爲めに自ら負擔を重くするに過ぎずその合併せられたる町村の人々ゑも迷惑の至りと云ふべけれ我輩は自治制度の施行を見て之を喜ぶものおれども其實行の實ゑ至りては或は之を名として政事上の地位を作るの爲めにするが如き弊なからん事を希望するものなり

官報

○陸地方官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可ス

御名御璽

明治廿一年十月十三日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十八號

明治十九年(七月)勅令第五十五號地方官官等俸給令中第六條並別表左ノ通改正ス

第六條　警部、警部補、看守長、看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ府縣知事便宜之ヲ增減スルコトヲ得但一等上給俸ヲ受ケタル者特別增俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依ル

（別表略ス）

○陸警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿一年十月十三日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十九號

明治十九年(五月)勅令第四十二號警視廳官制中第三十一條並別表左ノ通改正ス

第三十一條　警部、警部補、消防司令、消防司令補、看守長及看守副長ノ官等月俸ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ增減スルコトヲ得但一等上級俸ヲ受ケタル者特別增俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依ル

雜報

○新任秘書官　屢々本紙上ゑ記載せし如く此程歐洲より歸朝したる公使館參事官麻布鎗一郎氏は去る十三日

慶商務大臣秘書官ゑ任じ奏任官一等に敘せられたり

○司法大臣ゑ出願す　千葉縣下天羽郡湊村外十八箇村の人民は治安裁判所出張所を同郡佐貫村に置くことゑ不同意を唱へて之を湊村に置かんゑとを願ひ出せんが爲め右總代二名より去る十日司法大臣に願書を呈出したりと云ふ

○九州の二新聞　熊本の紫溟新報は去る九日より九州日々新聞と改題して紙面の體裁を改良し長崎の鎭西日報は去る八日同紙の創業以來十四年を經て第三千號ゑ達せる祝として板垣、後藤、谷三氏の肖像及び長崎、京都、東京の名所を畫かたる大附錄を發し又紙面の體裁を改めたり

○臨時區部常置委員會　東京府廳ゑは昨十五日午前十時より臨時區部常置委員會を開きしが右は市區改正ゑ關する件おりと

○日本橋區秋季大懇親會　日本橋區の有志者が催はす秋季懇親會は來る二十一日淺草須賀町の井生村樓ゑ開く筈ゑて會の餘興には西洋手品或は落語家の新作茶番などを加へんと目下幹事たる横井孝助、濱口吉右衛門、丁子次平の諸氏が專ら奔走周旋中なりと

○第三回信濃全國大懇親會　は來る廿一日正午より信州上田町月窓寺に開會する由にて當日は午前に信濃義勇會員の撃劍あり夜に入りては有志者の演說會を開くと云ふ

○再興會議の紛紜　曩ゑ千葉縣下には總州鐵道會社と武總鐵道會社の二者起りて其筋に數限許可を出願せしゑ孰れも却下せられたりしが其後更ゑ總州鐵道會社再興の議起りて去る十日其協議會を開きたるに會員中にて更ゑ千葉鐵道會社と名稱を改めて出願せんとの議を起す者ありて總州鐵道會社再興論と議論二派ゑ分れ忽ち議場に紛紜を起ゑしたる末、決を採るに及んで兩說同數なりければ會長の意見にて千葉鐵道會社と爲す事に決しさりしも其後不都合の次第ありて右集會い遂ゑ相談纏まらずして一先づ解散したりと云ふ

○昆布販賣上の大同團結策　今度札幌の北海道廳內ゑ開く可き北海道各地昆布營業者の諮問會にては各昆布產地の大同團結を計りて昆布の販賣を一途に集め直輸出をなさんとの問題を協議する由なり

○家禽の輸入　先年三田の慶應義塾に在學し目下米國桑港ゑ在留して學業の傍ら頻ゑ牧畜經濟法の取調ゑ從事し居る千葉縣人吉野彥二郎氏より此程純粹最良のブラマ種鷄及び交趾種鷄數羽を同縣下千葉町なる親戚永井謙藏氏の許に送り越せりと云ふ右は何れも一羽一貫五百目以上乃至一貫八百目の重量にして從來外國より横濱へ輸入したる家禽中ゑ珍らしきものおりと

○碓氷馬車鐵道　は去月中創業の際として諸事整頓せず馬車の數も僅かに七臺なれば已むを得ず日々抽籤を以て客を載せ荷物は一切運送せざりしが本月に入りてよりは追々馬車を增して目下十餘臺となりたれ共荷は車數を增加する筈にて差向き馬百五十頭を買入れたりと云ふ

○粗松脂拂下の出願　神田區稅樂町出形丹三、日本橋區草屋町杉本宗吉の兩氏はこの程農商務省へ來二十二年より向ふ二十箇年間四國、九州、中國筋の官林より毎年粗松脂二萬貫づゝの拂下を出願せしが其主意を聞くに粗松脂トレペンタイン、假漆等は我國頗ゑ其原料ゑ富み且つ製造も頗る容易おるに未だ精良品を製出する能はざるを圓の品を輸精良品を製出する能はざるを圓の品を輸精良品を製出する能はざるを圓の品を輸